

# ●三位一体後第二十一主日 泉のほとり

今月の詩編「第四十一編」

いかに幸いなことでしょう

弱いものに思いやりのある人は。

災いのふりかかるとき

主はその人を逃れさせてくださいます。



## わたしは既に世に勝っている

主イエスは「わたしはこれらのことを、たとえを用いて話してきた。もはやたとえによらず、はっきり父について知らせる時が来る」と語られました。そして「父御自身が、あなたがたを愛しておられる。あなたがたが、わたしを愛し、わたしも神のもとから出て来たことを信じたからである」と言われました。

天の父が弟子たちを愛しておられるのは、主イエスが神のもとから出て来たことを信じたからだ。「わたしは神のもとから出てきて、この世にきた。父のもとへと帰る」と。「天の父」云々と。誰がこのことばを信じられるでしょう。神を自分の父と呼んでいることに、人々は「この人は神を冒瀆している。人間でありながら、神を自分の父と言い、自分を神の子と表している」と反応したのです。「この人はナザレ出身で、大工ヨセフの息子ではないか」という声が飛び交ったのです。

しかし、主が選ばれ、召し出された弟子たちは違いました。主イエスが「神のもとから出て来た」ことを信じたのです。彼らはこの方の語られることばを聞き、これまで聞いてきたフアリサイ派の先生方や律法学者たちの教えとは違うと感じました。これまで聞いてきた彼らの立派な言葉とは違い、ナザレのイエスのことばには否定できない真実があり、力があつたからです。弟子たちにはナザレ人イエスに耳を傾け、驚く、この世の眼差しによらず、真理を求め聞く純真で、素直な心がありました。

ところが、主は「あなたがたが散らされて自分の家に帰ってしまい、わたしをひとりきりにする時が来る。いや、既に来ている」と言われました。この後、主が捕えられる時、弟子たちは主から離れ、逃げ去っていきます。しかし、主は続けて「わたしはひとりではない。父が、共にいてくださるからだ」と言われるのです。

十字架の道を、一人歩かれる主。弟子たちも去っていき、主はご自身を、非難し、暴力を振るい、嘲り、裁く人たち、偽りを語る者たち、兵士たち、更に大勢の群衆とが一体となった声で「十字架につける」と聞く、そのような人たちに囲まれるのです。完全に一人にされるのです。

しかし、主は「十字架と死を通ることがあっても、一人ではない。父が共におられる」と言われるのです。だからといって、これから背負われる十字架の重さが軽くなるわけではありません。飲むべき杯が取り去られるのでもありません。しかし、「天の父が共におられる、一人ではない」、この揺るぎのない事実、真理ゆえに、また、飲むべき杯を飲むことができるのです。

何よりも主は十字架の道を進まれるのですが、その確かな真理は、ご自身、十字架と死で終わらないという知識でもありません。父がご自身を死んだままにはしておかない。ご自身を甦らせられる父、御心に従う「子」に栄光を与えられる父を知る知識でもありません。

主イエスが十字架の道を歩かれるのは、人の代償となられたことではありますが、更にご自分に従う人たちに、ご自身にある父への信仰を与えるためでした。神の御心のため、たとえ十字架を背負うようなことがあつても、一人ではない、神が共におられる。それをご自身の甦りを持って確認してくださるためです。その信仰を弟子たちに、私たちにも授けてくださるためです。

その主が「これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」と語られたのです。「勇気を出しなさい」と。「父が共におられる」という不変で確かな事実の上に立つ主イエスからのその「勇気」をいただき、与えられた日々を、神と共に歩んでいきたい。与えられる日々を右にも左にもそれず、十字架の主イエスの足跡についていきたいと心から願います。

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

- 礼拝後、定例役員会をカナルームで行います。
- 二六日(土)附属幼稚園の運動会が園庭(雨天時、地下ホール)で行われます。

《ロビーの会より》

本日の礼拝後、ロビーでコーヒーマの販売を行います。お菓子付きで値段は七〇円です。お手持ちのコーヒーマサービス券もご使用いただけます。どうぞお買い求めください。

《ぶどうの会より》

本日の礼拝後、ぶどうの会を第二・三シオンルームで行います。

《ミニバザーより》

次週一〇月二七日のミニバザーはお受け取りは「セーター・ブラウス」「新品」、販売は「ジャケット類」です。  
新品の食品については、消費期限をお確かめの上、数を守ってお持ち下さい。開始はおおよそ一一時五〇分です。よろしくお願いいたします。

《ルツの会より》

次週一〇月二七日の主日礼拝後、ルツの会をカナルームで行います。出エジプト記五一一〇章を学びます。聖書、讃美歌をご持参の上、ご参加ください。

《ジュネーブ教会信仰問答》

第十九聖日

問一六 しかしわれわれの業はすべて、神のみ前でわれわれに恵みをえさせることができなほど、見棄てられたものでしょうか。

答 ます、われわれが固有の性質からなす業は、すべて欠陥のあるものであります。その結果、それは神に喜ばれることはできず、神はかえつて、これらをことごとく、お見すてになるのであります。

問一七ではあなたは、神がわれわれをその恵みの中に受け容れてくださるまでは、あたかも、悪い樹は悪い果実しか結ぶことができなように、われわれはただ罪を犯すこと以外に、何もなしえないというのですか。

皆 そうです。われわれの業は外見上、どんなに見事なさまをしておりますとも、依然として悪しきものでありますから。なぜならば、心が腐っており、それを神は見られるからであります。

問一八 そこからあなたは、われわれは神がわれわれに對して、よくして下さるようになるように仕向けるため、われわれの功績によって、予め神に好意をいだかせることはできず、反対に、われわれに向かつて神を怒らせるばかりであると、結論するのですか。

答 その通りであります。そしてただ彼の純粋な憐れみと真実によつて、彼はわれわれの業を少しも考慮なさることなしに、イエス・キリストにおいてわれわれを赦し、その義をわれわれに歸し、われわれの過ちは、少しもわれわれに歸することをなさらないということ、わたくしは申し上げるのであります。

問一九では何ゆえ、人は信仰によつて義とされる、とあなたはいうのですか。

答 なぜならば、われわれは福音のもろもろの約束を信じ、心からまことの信頼をもつてこれを受けるとき、この義を所有するようになるからであります。

問二〇 神がそれを、われわれに福音によつて差し出してくださるよう、それをうける仕方も、信仰によるのであるとあなたは理解するのですか。

答 はい。

《今日の子ども礼拝》

説教 「主がお怒りになられること」  
聖書 ヨシユア記7章1節  
説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)  
説教 「主に従い通した」  
聖書 ヨシユア記14章6〜12節  
説教者 宮間彰広兄

●主日礼拝(午前10時30分)  
讚美歌 28番 285番  
説教 「彼らのためにお願いします」  
聖書 ヨハネ17章1〜15節  
説教者 黄允湜牧師





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 294番 II4番  
説教 「わたしたちの本当の希望は」  
聖書 Iペトロ1章22～25節(新約P.429)  
司式 山下 純一 兄  
聖餐司式 黄 允湜 牧師  
説教者 吉村 和雄 名誉牧師

前奏曲「きよけき心を」 J.S.バッハ

### ○讃美歌294番

1. みめぐみゆたけき 主の手にひかれて  
この世の旅路を あゆむぞうれしき ※

※くりかえし

たえなるみめぐみ 日に日にうけつつ

みあとをゆくこそ こよなきさちなれ

2. さびしき野べにも にぎわう里にも

主ともにいまして われをぞみちびく ※

3. けわしき山路も おぐらき谷間も

主の手にすがりて やすけく過ぎまし

4. 世の旅はてなば 死のかわなみをも

恐れず越えゆかん みたすけたのみて

アーメン

### ○讃美歌 II4番

1. この世にあかしをたて みまえにて いこいつどう

聖徒ゆえ み名をほめん ハレルヤ ハレルヤ

2. いわおなる主イエスこそ みいくさの猛きかしら

やみじのひかりなれば ハレルヤ ハレルヤ

3. 聖徒のあとにつづき 雄々しかれ つわものらよ

みかむりうくる日まで ハレルヤ ハレルヤ

4. たたかい激しくとも かちうたを遠く聞けば

ちからはまたわきいず ハレルヤ ハレルヤ

5. 海より陸よりも うたいつつみ門にいらん

父、み子、みたまの主 に ハレルヤ ハレルヤ

アーメン

聖餐曲「永遠の至福」 O.メリアン

後奏曲「マエストロズ」 J.P.スウェーリンク

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。